

第236号
発行所
新潟県中魚沼郡
中里村公民館
毎月1回15日
定価 1部 5円

なかさと

3月1日現在

人口	7,310 (-2)
男	3,604 (±0)
女	3,706 (-2)
世帯数	1,672 (+1)

カッコ内は前月との比較



三月定期議会のもよう

龍吟

あわれな人間の一生

斎藤 大馨

この辺では日曜や国民の祝日にかかわらず、夕刊がないので正直いってホッとする。わずらわしいニュースに接しないだけでも助かる。といってもテレビやラジオには、日曜や祝日などのあつちあつちはない。

もっとマスコミは、明るい面をとりあげたらと思うが、これでもかこれでもか、とスキヤンダルをあびせ、勢い相は暗くなるばかりだ。一部でも多く新聞を売るには、善行美談ばかりをのせていたら、発行部数は激減する。

スキヤンダルを歓迎する読者側にも大きな問題がある。いずれにしても、必要以上にダークサイドの面をクローズアップする「マスコミ公書」は、今日ほど甚だしい時代もない。どちらを見ても、お先き真暗で、人間が生きている証拠かも知れぬ。思うに人間ほどあさはかなものはない。急がなくてもよいことを急ぎ、争わなくてもよいことを争い、目をひきつけて争っている。このはげしい悪苦の中にあくせくしてやっとな生活している。

カナがなければカネになやみカナがあれば、どうして保身するのには当然である。みにくい法廷争いが目に見えるよう、却って遺産が仇になる。というよりも、罪障を残しておくようなものだ。

まことに人間の一生などは哀れなもので、古語に「身をあわれんで語らば」ともひたすら求道をする。古語に「身をあわれんで語らば」ともひたすら求道の財より身の財すべからず。身の財より心の財第一なり」といっている。心の財第一なりとは私の心中深くそなわっている「仏心」である。

煩惱具足の方が身を照破されたら、十五夜のお月さままん丸になる。あらゆる束縛が断たれて、生死を超えることが出来よう。人間の日常生活の一切は、

村民スキー大会開かる

好天に恵まれた去る七日、マウントパーク津南スキー場で村民スキー大会が開催された。同スキー場を会場とした大会は今年で二年目、この日に雪上運動会を行った部落があったりしたため、参加人数が心配されたが、昨午中を越える約六十名が参加。午前中は講習会を併せて実施された。中には一人で数人分のみひろう人がいたが、そこは参加者同志のよしみで分け合い、ドン汁のサービスで腹ごしらえをしてからは大回競争、技、パン食い競争、風船割り競争などを楽しんだ。

尚、当日のスナップ写真が総合センターのロビーに貼り出されていますので、ごらんになりたい方はおいで下さい。

お願い

春は転出、転入などの異動の季節です。転居届を出さないとなんかの手紙が迷子になります。用紙は郵便局にありますが、提出し忘れた人は転出先からこちらの郵便局あてに葉書まで連絡すれば、こちらへ来た手紙等を新任所宛送付して頂けます。

中里文芸

三月投稿

幼学の子と灯は同じ夜なべ寒
しなやかに撫ねむす春の雨
照り返る冬陽に思ふ宮の松
みなれたる山肌荒き息吹見す
風邪にねて菊の一辨まで数う
鳴石

東風を背に遠く枯葉のとぶを見
る
二月の冷きさだかなる灯を凝ら
しつ

深雪
玉泉
柴山
追風
時習
独山

芒月
おのえ

村の「ことわざ」
小柳定夫 採集

◇細いもんで月をくく(短いもんで目をくくともいう)
◇馬子にも衣装
◇味方千人敵千人
◇婿が三代続けばくらが建つ
◇目についた女房鼻につき

◇握り飯を背負つていれば腹はへらな
◇盗人にも三分の理
◇寝る子は育つ
◇早起きは三文の徳
◇貧乏の影はついて廻る
◇二人口は過せ
◇一口は過るが二口は過ぎぬ
◇細いもんで月をくく(短いもんで目をくくともいう)
◇馬子にも衣装
◇味方千人敵千人
◇婿が三代続けばくらが建つ
◇目についた女房鼻につき

◇ものも言ひようで解がたつ
◇安物は身をたおす
◇用意して仕渡したことはねえ
◇来年の事を言つて鬼が笑う
◇両手に花
◇悪さだけは喧嘩のもと

◇勝負(かちまけ)は時の運
◇義理はどつらいものはない
◇暗闇から手を引き出す様
◇ゲスの逆恨み
◇子供は正直
◇逆さに振つても鼻血も出ない
◇十九の吉ぼほ
◇二十五の小野

人生往来

◎産声
氏名 父の名 部落
山本 良彦 輝雄 篠沢
斎喜 絵美 雅基 倉俣
鈴木 里子 幸太郎 芋川

◎昇天
氏名 年令 部落
廣田 アサ (遺) 干海

◎高砂
新部 辰雄(三)小原
新婦 高橋美津子(三)十日町

◎昇天
氏名 年令 部落
廣田 アサ (遺) 干海

新年度予算決る

一般会計 十億三千万円
特別会計 三億六千九百万円

今月十日からはじまった第一回定期議会は、十三日までに昭和五十二年予算に対する村長施政方針の説明、一般質問の他三十三にのぼる議案の審議などを終了した。

今議会で審議可決された昭和五十二年一般会計予算総額は十億三千万円となり、前年度予算を約一億三千万円上回る二・八七％の伸び率を示した。

又、特別会計は、国民健康保険、歯科診療、農業共済、水道、養魚センターで総額一億六千九百万円となり二・八％の伸びとなっている。

一方、これ等の歳出をまかなうに必要な歳入予算の項目別割合は地方公債金四九・一％、国、県支出金二一・〇％、村債八・四％、地方税(村税)七・八％となっている。

一般会計予算の項目別予算と割り合いは下の表の通りです。

項目	予算(単位千円)	構成比率(前年度比)
議会費	一〇九、三八八	(二・四)
総務費	二〇六、七〇五	(二・八)
民生費	五八、七六九	(一・四)
衛生費	二八七、四六二	(七・七)
農林水産業費	一一、四〇二	(一・一)
商工費	一一四、六七七	(三・一)
土木費	三二、六九九	(一・一)
消防費	一三三、九四七	(三・九)
教育費	六、一八八	(〇・六)
災害復旧費	四七、三二八	(一・四)
公債費	一、〇〇〇	(一・一)
予備費	一〇三、〇〇〇	(三・〇)
合計	一〇三、〇〇〇	(一〇〇・〇)

水道料金が値上げになります

今議会で村の簡易水道条例の一部を改正する条例案が可決され、昭和四十七年以来据え置かれていた水道料金が値上げになります。

これは、水道施設の維持、修繕などに要する費用を受益者から負担してもらう事と、地域によって異なっていた料金の基準を公平にする事を目的として改正されたもので四月一日から実施されます。それにより基本給水量(一〇m³)の料金が四百円(如來寺、倉下、西方、東田、程島、芋沢、通り山は三百円)となり、増加分については、公平にする事を目的として改正されたもので四月一日から実施されます。それにより基本給水量(一〇m³)の料金が四百円(如來寺、倉下、西方、東田、程島、芋沢、通り山は三百円)となり、増加分については、

